

A magazine about Shimane Prefecture, Japan

梦之港

Vol. 36

島根の世界遺産・登録から10年経って

伝統と現代が融合した大森の町並み
石見銀山遺跡の野生の冒険地「大久保間歩」へようこそ

町並みに生まれる世界の味
「生の温泉」は、温泉津にある

島根的世界遗产 ——登录迄今已10年

传统与现代相融合的“大森街道”

欢迎来到石见银山遗迹之野外冒险地“大久保间步”

街巷中孕育的世界美味

原生温泉，就在温泉津

大森の町並み



传统与现代相融合的“大森街道”

韩冰

在这微寒的初春时节,我们到访了石见银山。当车行驶在街道附近古朴的蜿蜒小巷时,透过车窗我看到了一排排伫立在街道两旁的石州瓦顶日式建筑及不远处恬静怡人的自然风景。红色的瓦片在阳光照射下熠熠生辉,十分耀眼。天气晴朗,舒适宜人。

石见银山位于岛根县西部大田市,是日本战国时代后期至江户时代前期之间盛产银矿的日本最大银山。2007年被列入世界遗产。我们此行的第一站是与银山相连的街区——“大森街道”。住宿的地方也是我们此次活动的基地,是在该街道上名为“水仙之店”的二层木造房屋。玄关外挂着由古木制成的名牌。进入屋内,映入眼帘的是带有日式障子拉门的和室及木质家具。在略泛黄光的灯光下,充满怀旧气息。

从同行的田原先生那里听了许多大森街道的故事。在我看来,大森街道发展至今,经历了繁荣、衰退、复苏三个阶段。

街道的繁荣、衰退

大森街道始建于江户时代初期,曾受德川幕府管辖。有长达400年以上的历史。据推测,最繁盛时期约占世界总产量三分之一的日本银大部分来自石见银山。1800年,发生了火灾,很多建筑物被烧毁。后经重建,形成了现在的面貌。

1987年,大森街道被



● Japanese

伝統と現代が融合した大森の町並み

まだ寒い初春の時期に、石見銀山を訪れた。車が町近くの曲道を走った時、窓ガラスから町の自然風景や通りの両側に立ち並んでいる石州瓦葺きの建物を見た。赤瓦が陽ざしの下に生き生きと輝いていて、眩しかった。天気がよく、快適だった。

石見銀山は、島根県西部の大田市にある、戦国時代後期から江戸時代前期にかけて最盛期を迎えた日本最大の銀山だ。平成19年(2007年)にユネスコ世界遺産に登録された。私たち最初の目的地は、銀山に繋がる町——「大森の町並み」だった。今回の宿泊地で活動のベース地は、この町並みにある「水仙の店」という二階建ての木造家屋だった。玄関に古木製の表札が飾られている。中に入ると、襖付きの和室や木造家具が目に入った。黄色味を帯びた光の下にノスタルジックな雰囲気を感じられる。

一緒に同行してくださった田原さんから大森の町並みの話を色々聞いた。大森の町並みは、繁栄、衰退、回復、という三つの段階を経て歩んできたと思う。

町の繁栄、衰退

大森の町並みは江戸初期に造られ、徳川幕府に支配された。400年以上の歴史がある。

最盛期に世界の3分の1に近い銀が日本銀で、その多くは石見銀山で産出されたと推定されている。寛政12年(1800年)に火事が起き、多くの建築物が焼失してしまった。その後、再建を経て、今のような姿になった。1987年に国家重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

町並みに沿って歩くと、鉱山の入口までたどり着ける。銀の採掘時代に、銀の流出を防止するため、銀山への往来がきちんと管理されていたらしい。当時、採掘の労働者たちは山の中に、国から下向した奉行や代官、有力な商人たちは大森の町に住んでいた。産出された銀は、この町を経由して各地へ運ばれた。今でも、現存する立派な建物から当時の栄さが窺える。

しかし、元禄期から銀の産出が少なくなり、第二次長州戦争などの影響で、やがて幕府支配の終焉がやってきた。明治時代に入り、自然被害、銅の価格低下、戦争などの原因で、銀の市場が一層悪化した。大正12年(1923年)に休山、昭和18年(1943年)完全閉山するに至った。それ以降、町の人口が減り続け、活気が失われ、一時的に「ゴーストタウン」になった。

韩冰

选定为“国家重要传统的建造物群保护地区”。沿着街道一直走,可以到达矿山的入口。在开采银矿的年代,为了防止银的外流,矿山的出入受到严格的管理。当时,从事采矿的劳动者们住在矿山里,国家下派的奉行及代官、富裕的商人住在大森街区。开采出的银经由这条街道运到各地。现在,仍然能够从街道气派的建筑物中窥探到当时社会的繁荣景象。



但是,从元禄时期开始,一方面银产量逐渐减少,一方面受到第二次长州战争等影响,德川幕府的管辖最终走向了尽头。进入明治时代,由于自然灾害、铜价格下跌、战争等原因,银市场进一步恶化,导致1923年休山,1943年完全封山。此后,街区人口持续下降,活力丧失。这里曾一度成为“鬼街”。

街区的复苏

据记载,繁盛时期的街区人口约20万人,但有人说实际人数约有几万人。而今,大约仅有400人居于此地。

在为街区的复苏而贡献的人群中,能看到一个人的身影。他就是中村俊郎。中村先生于1974年在大森街区创立了自己的公司。此后,他一直为逐渐衰落的史迹“石见银山”的再生,以及史料收集等工作而奔走。在中村先生的努力下,街区的房屋不断得以维护、改造,并被活用于住宿、餐饮等多方面。

现在的面貌

现在,大森街道仍留有浓厚的江户时代气息。

过去,由于辛劳的采矿劳动,人的寿命很短。人们为了寻求救助,在此建起了多座寺庙和神社。据说,在这小小的街道上有高达100座寺庙和神社。代表性的有“观世音寺”、“城上神社”、“五百罗汉”等。登上观世音寺的石阶后,看到的是黑瓦屋顶的寺庙。在那儿,可以一览街区的全貌。另外,在供奉大森氏神“大国主命”的城上神社的天花板上绘有一条极具色彩的龙。站在其正下方拍手,可以听到清脆的“凛凛”声。除此以外,街道上还有时尚的餐饮店、杂货店、音乐厅,以及复古的资料馆和武家宅邸。街道虽小,却洋溢着物质与精神兼备、传统与现代相融合的气息。

街道上分布着由老邮局改造而成的世界最小音乐厅“大森座”、格调清新的杂货及餐饮小店“群言堂”、从江户末期经营至今的烤制点心小店“有马荣光堂”、美味的日本料理“梅之店”、正宗的意式餐饮小店“GINZAN”和“ZUIENT”、德式面包“Bckerei Konditorei Hidaka”、大正时代至昭和初期经营的理发馆“ARATA”等等,充满历史文化气息;还有一排排石州瓦顶的日式房屋、潺潺的流水声、随处可见的装饰在玄关外的鲜花、盆栽、绘有地图模样的井盖……静谧的街道充分展现了日本“侘寂(wabi-sabi)”美学。

当地的居民很和善,遇到的人虽不多,但都微笑着向我们打招呼。路上,偶然发现一家卖有烤地瓜的小店。我们5人坐在小店对面的木椅上晒着太阳分享了一根烤地瓜。按理说是与平时一样的烤地瓜,然而那天吃起来却格外的香甜。

看到大森街道的风景,不禁让人联想到中国东晋文学家陶渊明所描绘的“世外桃源”田园景象。历史文化底蕴与现代特色完美交融,向世人展现了其多姿的一面。

2月,天气微寒,花未盛开。等到了樱花季节,这里应该更加惹人喜爱吧。



Japanese

町の回復

栄えていた時期には、町の人口は約20万人だったという記録があるが、実際の人口は約数万人だったと言われる。現在、約400人がここに住んでいる。

町の回復のために貢献している方々の中に1人の姿が見える。中村俊郎氏だ。中村氏は、昭和49年(1974年)に自分の会社を大森の町の中に創業して以来、過疎化のすすむ史跡の町「石見银山」再生や史料収集に尽力され続けている。中村氏 노력によって町の建物が次々とリフォームされ、宿泊所、飲食店などに活用されている。

現在の姿

大森の街並みは、今でも江戸時代の面影が残っている。

昔は、きつい鉱山労働のせいで人の寿命が短かった。人々が救いを求めるため、お寺と神社をたくさん建てた。小さな町なのに、100ヶ所もあったそうだ。町を歩きながら、見えるのは「観世音寺」、「城上神社」、「五百羅漢」など。観世音寺の石段に登って見えたのは、黒瓦葺きのお寺だ。そこから、町並み全体が一望に収められる。また、大森の氏神様の「大国主命」を祀る城上神社の天井に極彩色の龍が描かれている。その真下に立って手をたたくと、リンリンと澄んだ音が鳴り響く。この

他、オシャレな飲食店、雑貨屋、オペラハウス、レトロな資料館、武家屋敷もある。小さな町だが、物質と精神を兼ね、伝統と現代が融合しあった雰囲気溢れている。

町には、旧郵便局を改装した世界一小さなオペラハウス「大森座」、品のある雑貨と食事処のある「群言堂」、江戸末期から家族代々によって経営され続けている焼き菓子店「有馬栄光堂」、おいしい和食「うめの店」、本格的なイタリアン「GINZAN」と「ZUIENT(ズイェント)」、ドイツパン「ベッカライ コンディトライヒダカ」、大正時代から昭和初期にかけて続いた理容館「アラタ」などがある。

石州瓦葺きの家並み、川のせせらぎ、あっちこっちに飾られている花、盆栽、庭木、地図模様のマンホール…静かな町並みから日本の「わび・さび」の美意識がちゃんと伝わる。

町の人はやさしかった。出会った人は少なかったが、みんな笑顔で挨拶してくれた。途中で焼き芋のある小店が見つかった。お店の正対面の縁側に座っていて、5人で焼き芋1本を食べた。いつもと同じ焼き芋のはずだったが、その日は格別においしかった。

大森の町並みの風景を見たら、中国東晋時代の文学者である陶淵明が書いた「世外桃源」の田園風景が頭に思い浮かんだ。これは、伝統文化と現代の特色が完璧に混じり合う姿を一目で見ることができている。

2月はまだやや寒く、花もあまり咲いていなかった。桜の時期になると、もっと惹かれるだろう。

欢迎来到石见银山遗迹之野外冒险地 “大久保间步”

朴慧贞

岛根县是面向日本海的狭长县,大体被划分为东部的出云地区和西部的石见地区。

石见地方最具代表性的观光点就是大田市的石见银山遗迹了。石见银山是联合国教科文组织认定的世界遗产,在其全盛时期的16世纪中叶至17世纪前期,占世界产银量三分之一的日本银大多产自此处。而这一回的岛根情报志之所以选择“大久保间步”去采风,正是为纪念石见银山入选世界遗产10周年。

所谓“间步”,通俗的说就是挖掘银矿的坑道。据调查确认石见银山遗迹中有900处以上的间步。其中,迄今为止公开的“龙源寺间步”,我因工作或私事的关系屡次来访过。而此次我们要去的“大久保间步”,则据说是石见银山被登录为世界遗产10周年的2017年7月,经扩大整修,才对外开放的。虽说可以对外开放,也要经事先预约,带上导游才能以团队形式结伴而去。团队游的期限通常限定在3月到11月之间的周五·周六·周日·节日期间,12月到2月之间则停止运营。然而,对于本次的采风,尽管才2月份,却获得了允许进入间步的许可。

石见银山遗迹里最大的矿道“大久保间步”,据说乃是因江户时代,初代银山奉行大久保长安曾跨马持枪昂首挺进,故而得名大久保。

2月,天气晴朗但仍有些许寒意,我们一行就此出发。然而



大久保间步的所在之地本谷地区的山地里还残留着不少积雪。抵达之后,众人旋即换上长靴,准备登山。或许是积雪的因素,山道似乎越来越滑,我们也小心翼翼,顺着距离间步500米的山道一气前行。据说即便不下雪,进入大久保间步也需备好长靴。还有头盔、手电等,都是必须用品。终于到了入口,迫不及待地走进一看,才意识到要是没有手电,里面真是漆黑一片。

由于灯光照射,洞穴内部的样貌显而易见。高高在上的天井,以及流水漫过的脚下。都比之专门修饰一新让人参观的龙源寺间步,更有原生态的感觉。而我也感觉仿佛穿越到数百年前的间步之中。据说间步内的温度为14度左右,果然,比起外面里边儿要暖和许多。在光线照射下,洞穴内壁江户时代手工挖掘的细微痕迹,以及明治时代之后机械挖掘的痕迹依稀可见。试想,如此昏暗的空间之内,仅依赖小小的一盏螺灯,独自一人默默挖掘,其劳动之寂寞艰辛真是难以想象啊!

就这样,我们在黑暗中靠着光的指引,谨小慎微地往前迈进,终于走到了“福石场”,大久保间步内真正值得驻足观看的景点。

经过铺装着防止落石和人员掉落的金属防护栏的竖坑,我们看到了下面留有挖掘痕迹的“福石场”。透过脚下的防护栏的缝隙,能看到在很深的地方似乎仍有挖掘痕迹。听取讲解之际,慑于间步内上下挖掘出来的巨大空洞的诡异氛围,不禁出了一身冷汗。尽管如此,我们还是完整地完成了这座自去年7月才公开的福石场的参观。随后又继续打着手电,沿着来时的通道返回到了入口处。

我从事岛根县国际交流员的工作已有4年之久。第一年,即4年前的6月,初次访问石见银山的时候,印象中特别深刻的乃是听说,为了采掘银矿,并没有因为开挖矿道就轻易破坏环境,而是在尽量不破坏自然环境的前提下挖出了矿道,并且还特意考虑到了在矿道这一严酷环境中从事劳动的劳动者的福



Japanese

石見銀山遺跡の野生の冒険地「大久保間歩」へようこそ

朴慧贞(パク・ヘジョン)

島根県は日本海に面している細長い県で、東部の出雲エリアと西部の石見エリアに大きく分かれている。

石見エリアの代表的な観光地に、大田市の石見銀山遺跡がある。石見銀山はユネスコ世界遺産でもあり、全盛期の16世紀半ばから17世紀前半には、世界の産銀量の約3分の1を占めた日本銀の多くが石見銀山で生産されたと言われる。今回の島根情報誌では石見銀山が世界遺産に登録されてから、10周年になったのを記念に、「大久保間歩」について、取材した。

間歩というのは、銀を採掘した坑道のことをいう。石見銀山遺跡には900個以上もある間歩が調査で確認されている。この中で、今まで一般公開されていたのは「龍源寺間歩」である。龍源寺間歩は今まで仕事やプライベートなどで何回か行ったことがある。今回取材で行った「大久保間歩」は石見銀山が世界遺産に登録されてから10周年を迎えた2017年7月、拡大整備を終え、一般公開された。一般公開といっても、事前予約が必要なガイド付きツアーになっている。ツアーは3月から11月までの金・土・日・祝日の限定で、12月から2月は休止になっている。

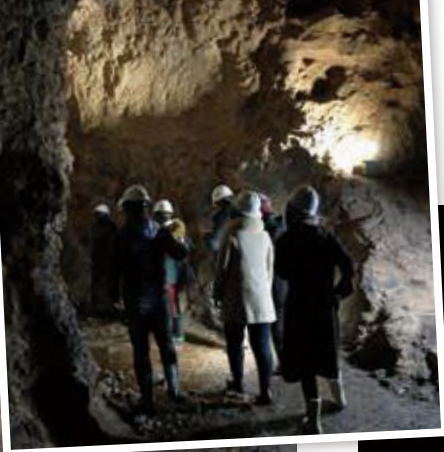
今回の情報誌の取材は、2月だったのにもかかわらず、大久保間歩に入ることを特

別に許可された。

石見銀山遺跡の最大級の坑道跡である「大久保間歩」は江戸時代、初代銀山奉行の大久保長安が槍を持って馬に乗ったまま入ったという伝承から、大久保という名になったといわれている。全長約900mのうち、入口から約160m区間が公開対象だったが、今回の拡大整備で、さらに約15メートル奥の高品質な銀鉱石「福石」の採掘場跡である「福石場」が見学可能になった。江戸時代から明治時代にかけて大規模に開発された大久保間歩は前からずっと入ってみたかったから、今回の取材をとっても楽しみにしていた。

2月の、少し寒いが晴天にめぐまれた日に、取材に向かった。大久保間歩がある本谷地区の山にはまだ雪がたくさん残っていた。さっそく長靴に履き替えて、山を登った。雪のせいか、山道が滑りやすくなっていて、気を付けながら、間歩の入口までの約500mの山道をひたすら歩いた。雪がない季節でも大久保間歩に入るためには、長靴が必要だそう。またヘルメット、懐中電灯が必要だが、これらは全部用意してもらえる。やっと入口に着いた。さっそく中に入ってみたら、懐中電灯がないと、まったく見えない真っ暗の世界だった。

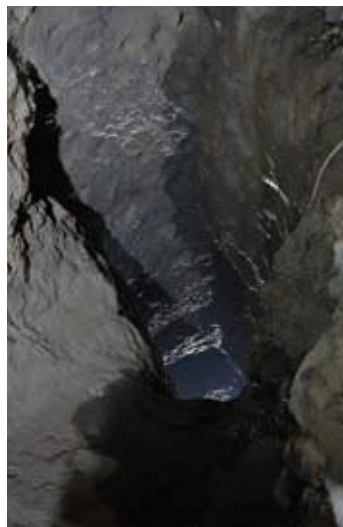
銀



利体系。虽然距今已过数百年,回想起来仍十分令人震惊。也正是因为具备这些优势,石见银山才得以作为银山遗址在亚洲,成为首批被认可的世界遗产。

此次,在参观石见银山遗迹内的“大久保间步”之际,回想以往参观“龙源寺间步”时感受到的彼时银山的不易,却又觉得“大久保间步”才更胜一筹,真正令人体验到了原始的、原生的、那个时期采掘银矿的矿道。

朋友们,若是期待着石见银山遗址之旅,我推荐诸位务必要把“龙源寺间步”和“大久保间布”都逛一回,切身体会两者之异同。不过,“大久保间步”要事先预约,提前安排好前往的日程。也更值得冒险一试。届时,如若能同“大久保间步”中沉睡的蝙蝠悄然相逢,亦或为旅途赢得满分惊喜哦。



Japanese

二又

電灯を照らしたら、間歩の内部の姿が目に入った。天井はけっこう高く、足元には水が流れていた。見学施設として、きれいに整備されている龍源寺間歩に比べたら、原始的で、野生的な感じがした。まるで、自分が数百年前にタイムスリップしたように、昔の間歩がそのままそこに存在していた。間歩内の気温は14度くらいと聞いたが、さすが、外より内部のほうがもっと暖かかった。明かりを照らして、間歩内の壁を見てみたら、江戸時代に手で直接坑道を掘った細かい跡と明治時代に入ってから、機械を使って発破して坑道を作った跡が共存していた。この真っ暗の闇の中で、小さい螺旋灯に頼って、一人で黙々と坑道を掘っていた人々のことを思いながら、その作業は想像を超える、きつものすごく寂しい作業だっただろう。こうやって、しばらく暗闇の中を光に頼りながら、恐ろしくに進んだら、とうとう大久保間歩内の見どころ、「福石場」に着いた。

落石と転落を防ぐ金属製の枠が設けている縦坑を通過しながら、その下にある採掘跡である「福石場」を見ることができるようになっていた。足元の枠の間からけっこう深いところに採掘跡が残っているように見えた。説明を聞きながらも、上下に巨大に掘ってある間歩の雰囲気は威圧され、冷や汗さえかいた。これで、去年の7月から公開されている福石場まですべての見学が終わり、また帰り道も恐ろしく懐中電灯を照らしながら、入口まで戻ってきた。

島根県で国際交流員という仕事をしてから、もう4年が経った。初年だった4年前の6月、初めて石見银山に仕事で訪問した時、特に印象的だったのは、銀採掘のため、むやみに、自然を壊して、坑道を作ったわけではなく、自然のことに気をつかいながら、坑道を作ったり、坑道という厳しい環境で働く人のための福祉システムがあったりしたということだった。今から数百年前の時代なのに、すごいと思った。こういったところが評価され、石見银山は银山遺跡としてはアジアで初めての世界遺産に登録された。

私は今回、石見银山遺跡内にある「大久保間歩」を見学しながら、以前、何回か見学経験のある「龍源寺間歩」でも当時の银山での生活ぶりなどがわかってすごいと思ったが、「大久保間歩」はそれを超越する、昔のままの、生のままの、銀を採掘した当時の坑道を体験できた。

皆さんも、もし石見银山遺跡を見に来るとしたら、「龍源寺間歩」と「大久保間歩」を全部回ってみることをお勧めしたい。二つの間歩がどれだけ違うか直接体で感じてほしい。でも「大久保間歩」は事前予約が必要で、入れる日が決まっている。だからこそ、もっと冒険してみる価値があると思う。「大久保間歩」の中でしずかに眠っているコウモリとぼったり出会ったら、もっとスリル満点かも。

街巷中孕育的世界美味

Borkhodoeva Natalia

菜单

*第一天

白天...炸鸡块套餐@日式饭馆“梅子的店”

茶点...红茶&香草冰激凌@意式咖啡「ZUIENT」

晚间...意大利料理@意大利专门店「GINZAN」

*第二天

早晨...companiono 面包 from德式面包店「HIDAKA」

我喜欢日本的理由之一,乃是丰富又健康的饮食文化。并且,对于我而言,饮食也是旅行中很重要的评价标准。本次拜

访的石见银山大森地区是世界遗产中登录城市中知名且备受瞩目的美食观光点。

寒冬之际暖愈人心的味增汤和多汁儿的炸鸡块儿。冰激凌上撒着醒目爽快的巴西产浓咖啡。一瞬间就能让人步入意大利之旅的美味的空心粉和披萨。毫无疑问这一切都是那么的美味。两天时间,我们触摸着岛根的历史品味着世界美食,尽享奢侈美好时光。

大概是因其饱含着人间真性情吧,陡然之间,料理也变得



Japanese

町並みに生まれる世界の味

メニュー:

*一日目

昼...鶏から揚げ定食@和食店「うめの店」

おやつ...紅茶&アフガート@イタリアンカフェ「ZUIENT」

夜...イタリア料理@イタリアン専門店「GINZAN」

*二日目

朝...カンパニオパンfromドイツパン店「HIDAKA」

私が、日本が好き理由の一つは体に優しくて豊かな食文化があることだ。そして、私にとって食事は旅行の大事な評価基準だ。今回訪ねた石見银山の大森地区は世界遺産の中にある町として有名で、注目を集め続けており、グルメスポットとしても誇れると思う。

寒い冬に温かく癒してくれる味噌汁とジューシーな鶏のから揚げ。目が覚めるブラジル産エスプレッソのかかったアイスクリーム。一瞬、イタリアに旅をしてい

ナタリア・ボルホドーエワ

るような気分も味わえる美味なパスタやピザ。言うまでもなくすべてがとても美味しかった。二日間、島根の歴史に触れながら世界の料理を味わう贅沢な時間を楽しんできた。

料理をさらに美味しく感じられたのは人間性のある雰囲気があるからだと思う。



廿町界並のみに生まれる



更加美味可口了。

现代,即便与朋友一起外出旅行,大家也是以玩手机来代替相互聊天,旅行途中与陌生人搭讪聊天的也不多。然而,大森的咖啡馆和意大利餐厅“ZUIENT”(随缘社-有缘千里来相会),倒是名副其实地重视缘分、能够轻松愉快地聊天的地方。作为本店店长的有藤先生,没有选择都市而是选择留在魅力十足的家乡,与大森地区的德式面包店共同主办登山之后的山顶早餐聚餐活动。

今年1月5日刚开业的意大利餐厅“GINZAN”的业主强烈的希望复活被称之为“鬼城”的大森地区,并致力于聚集人气,营造能够轻松聊天的舒适场所,由此,我对于石见银山的兴趣更加浓厚了。晚餐期间非常有幸与中村俊郎先生在西餐厅共进餐。婚姻中陪伴先生近40年娴熟优雅的夫人也与我们一起,一边谈论着家乡的趣闻及与国际友好相关的轻松地话题,



一边品尝着入口即化的意式料理,共同度过了这段美好时光。

经理说,他在意大利的科尔托纳市的5年期间,一边磨练技艺,一边环游欧洲看世界,比起料理更在意人与人在品尝料理期间度过的愉快的时间。说的没错,打开作为婚宴会场的餐厅大门一看,呈现出柔和光线环绕的宴会大厅。有能够观察到厨师的前台,二楼的隔层还展示着有关餐厅和员工历史意义的展品。

与晚餐一同呈献给众人的还有德式面包店“HIDAKA”制作的companiono面包,朋友们一起品尝着世界的美味,畅聊着与世界相关的话题,度过了一个美好的夜晚。



Japanese

三五

現代では、友達と旅に出かけても会話の代わりにスマートフォンをいじることが多く、旅行で知らない人に話かけるのも稀になった。その一方で、大森にあるコーヒーとイタリア料理店の「ZUIENT」(“随缘社”一縁に従う者たちが集う場)では名前の通り人との縁が大事にされ、居心地がよく楽しく話げできた。この店の店長を務める有藤さんは都会よりも魅力的なふるさとの田舎大森地区を選んで、早朝登山のあと山頂で朝ごはんを食べたりするイベントを同じく大森地区にあるドイツパン店と一緒に主催している。

今年の1月5日にオープンしたばかりのイタリアンレストラン「GINZAN」のオーナーは「ゴーストタウン」だった大森地区の復活を強く望んで、人が集まり楽しく会話できる素敵な場所を作ること貢献されているので、石見银山がさらに興味深く感じる。中村俊郎氏はこのレストランでの夕食会に同席してくださった。結婚して40年近くになる素敵な奥様と一緒に、好きなふるさとや国際友好について楽しい会話をしながら美味しく口の中で溶けるようなイタリアン料理を楽しんだ。

マスターはイタリアのコレトナー市で5年間腕を磨きながらヨーロッパを回り

世界を見てきて、料理よりも人々にその料理を食べながら過ごす時間そのものを楽しんでほしいとおっしゃった。その通り、結婚式場にもなるレストランのドアを開けてみると柔らかい明りに包まれたおしゃれな食事会場が現れる。キッチンの様子を観察できるカウンターもあり、二階のロフトにレストランやスタッフの歴史を伝える物が展示してある。

ドイツパン店「HIDAKA」で作られたカンパニオパンもこの夕食と一緒にいただき、仲間と一緒に世界の味を楽しみながら世界について話し、夜を過ごした。



原生温泉, 就在温泉津

Oliver Marshall

日本是火山列岛,全国有着数以千计的自然温泉从地表深处涌现出来。日本文化与温泉有着难以割舍的联系。处于悠然的自然当中的温泉,往往能让人放松心情、振奋精神。除此以外,温泉还能聚集人气、是朋友、家人以及社交时交流的好地方。比起言语的描述,亲身体验更能理解日本文化的意义吧。

带着这样的认识,2018年2月20日,我与岛根县的国际交流员们一起去感受了岛根中部沿岸最好的温泉。从大田市中心驱车30分,抵达以温泉为中心的“温泉津”。温泉津被称为日本史上最大的银山-世界遗产石见银山的玄关,历经千年,象征着日本人对温泉无限的热爱。

踱着步子走完全长800米的温泉津的街道,犹如走过一段短暂历史的旅程。道路两边房屋鳞次栉比,狭窄的山谷间可见数条小道,从码头起如波纹一般的主干道连接座座山峰。我们一边散步,一边听岛根县文化财课世界遗产室田原淳史先生的讲解。据他介绍,此地的基本地表结构400年间毫无变化。住宅、神社、咖啡店、旅店、画廊等建筑的排列可谓兼容并蓄,却依然能令人感受到温泉津往昔的风采。

为了寻找评价最高的温泉,我们找到了街道中心的“药师汤”。作为日本数得上的天然温泉,药师汤也是山阴唯一、获得日本温泉协会最高评价认证的温泉。既不用扬水机,也不用加工,完全源自天然流水。在此基础上,又因其治疗特性而知名。根据岛根大学医学部的调查得知,用药师汤温泉洗浴比普通的自来水洗浴,改善血流的效果更佳。

一听说对健康有好处,我兴奋不已,准备立刻进去泡的



时候,却被员工特意提醒“小心哦!要做好心理准备啊”,以及入浴前后必须要饮水啦,泡2~3分钟刚刚好啦等各种注意事项。

由于澡堂很小,一进屋就能看到正中央的温泉池子。而与基石底色相称的房屋设计,不由得让我感觉,莫非是为了便于

客人更好地凝神体验。的确,进入号称“双重美肤之汤”的富含矿物质的药师汤里,肌肤就变得顺滑起来了。

在药师汤放松的人更能体味温泉津的魅力。温泉的旁边还有可享用美餐的“震汤-咖啡内蔵丞”,乃是自1919年建造而成的木制西洋建筑。温泉津与其说是单纯的温泉街,倒不如说是体验岛根风土人情的绝佳之地。



Japanese

「生の温泉」は、温泉津にある

オリバー・マーシャル

日本は火山列島であり、全国では数千の自然温泉が地球の深いところから湧出している。日本文化と温泉は切っても切れない関係にある。温泉は自然の安らぎに囲まれ、人々にリラックス、リフレッシュ効果を与えてくれる。また、温泉には人々が集まり、友達・家族・社会の共用スペースとして人々の交流ができる場面でもある。言葉で説明されるより、体験することで日本文化の意義が分かりやすくなるであろう。

この知識と一緒に、2018年2月20日に島根県の国際交流員と一緒に島根中部の沿岸に最高の温泉に浸かりに行った。大田市の街中から車で約30分、温泉を中心とした「温泉津」に着いた。温泉津は日本史上最大の银山・世界遺産、石見银山の玄関口とも呼ばれ、1000年以上の歴史があり、日本人が温泉を果てしなく愛するシンボルである。

温泉津の町は、全長800メートルに渡る歴史の小旅行として見られる。通りの両側に家屋が並ぶ小道が数本しか入らない狭い谷に刻まれ、港からうねるように表通りが山々に繋がっている。私たちは散歩しながら、島根県文化財課世界遺産室の田原淳史さんに案内してもらった。田原さんによると、町の基本的な地割は400

年間変わっていないという。その地割の上に家屋・神社・カフェ・宿・画廊等が折衷的に並ぶ温泉津では、昔ながらの景色が楽しめる。

最高評価の温泉を探して、中心街にある「薬師湯」にたどり着いた。日本有数の天然温泉として知られ、薬師湯は山陰で唯一、日本温泉協会の認証で最高評価を取得したこともある。揚水機もなく、加工もせず、源泉は天然に流れる。その上、治療特性で有名。島根大学医学部の調査によると、薬師湯の方が水道水の入浴より血流が改善されたことが分かった。

私は健康上の利点に意気込み、温泉に入ろうとしたら、職員に「熱いよ!心の準備が必要!」と注意された。入浴前後に必ず水を飲むことや、2~3分の入浴期間がちょうど良いなど、いろいろ細かい方法を教えてもらった。

入浴場は意外と狭かったので、部屋の真ん中にあるお風呂がすぐ目に入った。もしかして基礎岩盤の色に合わせた部屋のデザインを通して、入浴する人の気を散らさないためにできたのかなと、私は感じた。「ダブル美肌の湯」とも呼ばれる鉱産物を含んだ薬師湯に入り、肌が非常に滑らかなになった。

薬師湯でリフレッシュした人はさらに温泉津の魅力を味わえる。温泉のそばには美味しい食事ができる「震湯・カフェ内蔵丞」という1919年に建造された絢爛な木造洋館がある。私は昔の和洋風の家具を見て、大正時代にタイムスリップしたように感じた。土曜日の夜になると、近くの神社で神楽も楽しめる。温泉津は単なる温泉街というよりも、本格的な島根の体験そのものである。

A magazine about

Shimane Prefecture, Japan <http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/>

梦之港

编辑: 尚亚龙、韩冰

Publisher: 岛根县环境生活部文化国际课

关于本杂志, 您有任何疑问或疑问请与我们联系。

1 Tonomachi, Matsue-shi, Shimane-ken 690-8501, JAPAN

发行: 岛根县环境生活部文化国际课



Park Hye-Jung

Donovan Goto

Han Bing

Natalia Borkhodoeva

Oliver Marshall

Shang Yalong